

目的 学校が制定したユニホームが若い女子高校生の意識にどのような反応を与えているかを、大都会の近郊にある女子高校生を対象として調査し、女子高校の制服の制定に対する指針を得ようとした。

方法 被験者の選定は大都会近郊にある某女子高校生(2年生)40名を対象とした。アンケート調査の方法を用い、質問紙はH.M.Ebeling¹⁾の形式をそのまま用いた。プリテスト、信頼性、妥当性はこのインストルメントに対しては検証済みである。また別に生徒の制服に対する意識の具体的な表現として、生徒の着用するソックスについて、学校制定のソックスと、これと異なるソックスの形態、色彩について調査し、点数づけを行なった。

結果 アンケート結果について因子分析を行なったところ、生徒は制服に同調するグループと制服に非同調的な潜在意識をもつグループにわかれた。これをソックスの調査結果と対応させたところ、図のように、ファッション性に同調意識が強く、制服に非同調的な生徒が被験者全数の約60%、ファッション性の意識をもちながら制服に同調的な生徒が約20%、ファッションに非同調的で制服に順応し、あるいはファッションにも制服にも非同調的な生徒がわずかながらみられた。

文献 1) H.M.Ebeling: "Some Aspects of the Personal and Social Function of Clothing" Unpublished M.A.Thesis, Michigan State Univ.

